



2023年度 第2四半期 決算説明会資料

JT Group CFO
加藤 信也

※本資料に含まれる数値は各事業の業績を分かりやすく説明するために使用しており、財務諸表の数値と異なる場合があります。
※用語の定義については、スライド17以降に記載しております。

将来に関する記述等についてのご注意

本資料には、当社又は当社グループの業績に関連して将来に関する記述を含んでおります。かかる将来に関する記述は、「考えています」「見込んでいます」「予期しています」「予想しています」「予見しています」「計画」「戦略」「可能性」等の語句や、将来の事業活動、業績、事象又は条件を表す同様の語句を含むことがあります。将来に関する記述は、現在入手できる情報に基づく経営者の判断、予測、期待、計画、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。これらの記述ないし事実又は前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もなく、当社としてその実現を約束する趣旨のものでもありません。また、かかる将来に関する記述は、さまざまなリスクや不確実性に晒されており、実際の業績は、将来に関する記述における見込みと大きく異なる場合があります。その内、現時点で想定される主なものとして、以下のような事項を挙げることができます（なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません）。

- (1) 喫煙に関する健康上の懸念の増大
- (2) たばこに関する国内外の法令規則による規制等の導入・変更（増税、たばこ製品の販売、国産葉たばこの買入れ義務、包装、ラベル、マーケティング及び使用に関する政府の規制等）、喫煙に関する民間規制及び政府による調査の影響等
- (3) 国内外の訴訟の動向
- (4) たばこ事業以外へ多角化する当社の能力
- (5) 国際的な事業拡大と、日本国外への投資を成功させる当社の能力
- (6) 市場における他社との競争激化、お客様の嗜好・行動の変化及び需要の減少
- (7) 買収やビジネスの多角化に伴う影響
- (8) 国内外の経済状況
- (9) 為替変動及び原材料費の変動
- (10) 自然災害及び不測の事態等



2023年度 第2四半期実績

2023年度 第2四半期実績

(億円)	2023年 1-6月	前年同期比
財務報告ベース		
売上収益	13,928	+9.9%
調整後営業利益	4,428	+6.7%
営業利益	4,136	+8.0%
四半期利益	2,870	+8.7%

注：IAS第29号超インフレ会計の適用に伴い、上記の表に記載の財務報告ベースの実績は超インフレ会計の影響を含みます。

為替一定ベースの実績は、特定市場のハイパーインフレーションに伴う売上及び利益の増加分について、一定の算定方法を用いて控除しています。

為替一定ベースcore revenue：前年同期比 +6.8%

為替一定ベース調整後営業利益：前年同期比 +4.7%

- 引き続き、たばこ事業のプライシング効果が牽引

売上収益・調整後営業利益（財務報告ベース）

- 売上収益：たばこ事業・医薬事業のトップライン伸長に加え、円安に伴うたばこ事業でのポジティブな為替影響により、増収
- 調整後営業利益：全ての事業において増益を達成、円安に伴うたばこ事業でのポジティブな為替影響も後押し
- 上半期においてはポジティブに発現したものの、4-6月期においては一部現地通貨が円高方向に推移したため、為替影響はネガティブに転じる

営業利益

- 調整後営業利益の増加等により、増益

四半期利益

- 営業利益の増益に加え、法人税負担の減少影響が金融損益の悪化影響を上回り、増益

たばこ事業：数量実績

(億本)	2023年 1-6月	前年同期比
総販売数量	2,693	+2.5%
Combustibles 販売数量	2,652	+2.5%
RRP販売数量	42	+3.9%

Combustibles

- (+) EMAクラスターにおける好調な販売数量
 - トルコにおける総需要の増加影響
 - Global Travel Retailにおける渡航者数の回復継続
 - 新興国における好調なモメンタム
- (+) 日本における堅調な総需要、バリューセグメントを中心としたカテゴリ内シェアの伸張
- (-) フィリピン、英国における総需要減少影響
- (-) スーダンにおける事業一時停止影響

RRP

- (+) 日本におけるHTS*カテゴリ内シェアの伸張
- (+) 欧州でのPloom Xローンチ
- (-) 一部市場における一時的要因

*heated tobacco sticks

たばこ事業：財務実績

(億円)	2023年 1-6月	前年同期比
自社たばこ製品売上収益	12,172	+10.1%
(同 為替一定)	11,806	+6.8%
調整後営業利益	4,502	+5.9%
(同 為替一定)	4,417	+3.9%

注：IAS第29号超インフレ会計の適用に伴い、上記の表に記載の財務報告ベースの実績は超インフレ会計の影響を含みます。
為替一定ベースの実績は、特定市場のハイパーインフレーションに伴う売上及び利益の増加分について、一定の算定方法を用いて控除しています。

自社たばこ製品売上収益

- (+) ロシアや英国をはじめ、多数の市場でプライシング効果が発現
- (+) EMAクラスターや日本での堅調な総販売数量

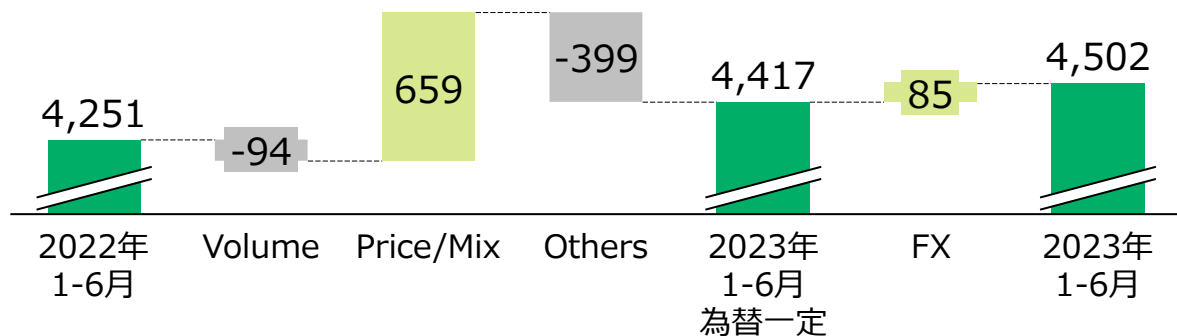
調整後営業利益

- (+) トップラインの伸長
- (-) 市場構成比の悪化、複数市場における商品構成影響の悪化
- (-) サプライチェーンコスト上昇影響、Ploom X 地理的拡大に伴う投資増加

為替影響

- (+) 上半期においてはポジティブに発現したものの、4-6月期においては一部現地通貨が円高方向に推移したため、為替影響はネガティブに転じる

調整後営業利益 増減要因 (億円)



たばこ事業：クラスター・主要市場サマリー

ASIA

- **日本:** CombustiblesにおいてはCamel Craft・MEVIUS E-seriesが牽引し販売数量・カテゴリ内シェアが増加。HTSではPloom Xが引き続き成長し、販売数量・カテゴリ内シェアが増加
- **フィリピン:** Camelを中心にシェアは引き続き伸張するも、度重なる増税値上げに伴う総需要減少により、総販売数量は減少
- **台湾:** 海外渡航者数の増加影響を受け総需要・総販売数量は減少するも、ほぼ全てのブランドにおいてシェアが継続的に伸張

WESTERN EUROPE

- **イタリア:** Winstonの牽引によるCombustiblesシェア伸張及びPloom Xのローンチにより総販売数量が増加
- **スペイン:** シェアは安定的に推移したものの、Combustibles総需要減少の影響及びネガティブな流通在庫調整影響により総販売数量は減少
- **英国:** 複数回の増税値上げによる大幅な総需要減少等により総販売数量は減少するも、引き続き力強いプライシング効果が発現

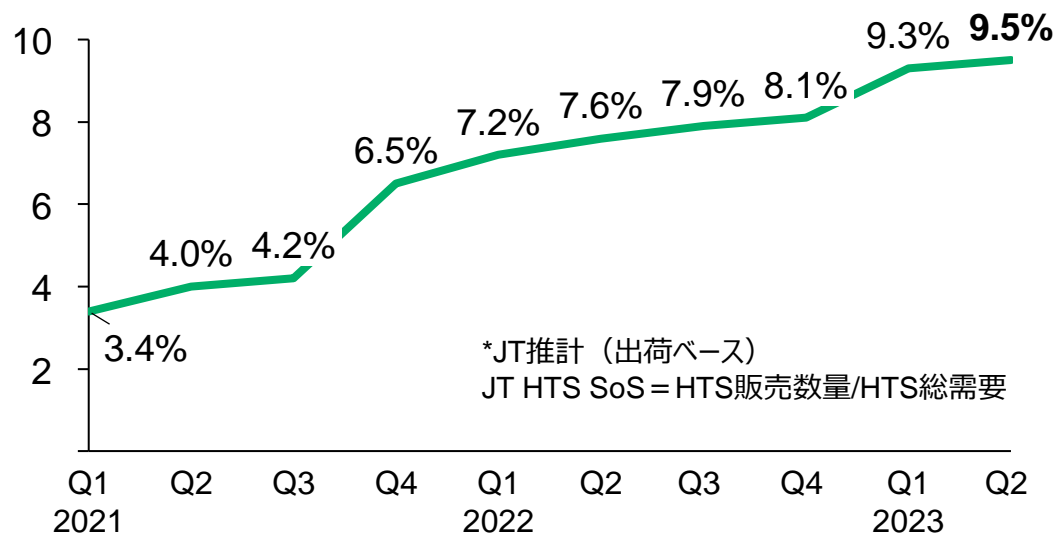
EMA

- **ルーマニア:** Combustibles総需要の減少はあるも、Value価格帯のCamelが牽引したCombustiblesカテゴリ内シェアの伸張により、総販売数量は増加
- **ロシア:** 総需要減少及びPloom Sの販売終了影響を、Combustiblesカテゴリ内シェアの増加が一部相殺。プライシング効果も発現
- **トルコ:** 増税値上げ前の在庫拡充等により総需要・総販売数量が大幅に増加

たばこ事業 : Ploom X Japan overview

- 競争が激化する環境下においても、Ploom XのHTSカテゴリ内シェア伸張は継続
 - MEVIUSたばこスティックのリニューアル（2023年3月）
 - デバイスの期間限定ディスカウントキャンペーン（2023年5月～7月）

日本市場：HTSカテゴリにおけるJTシェア*の推移

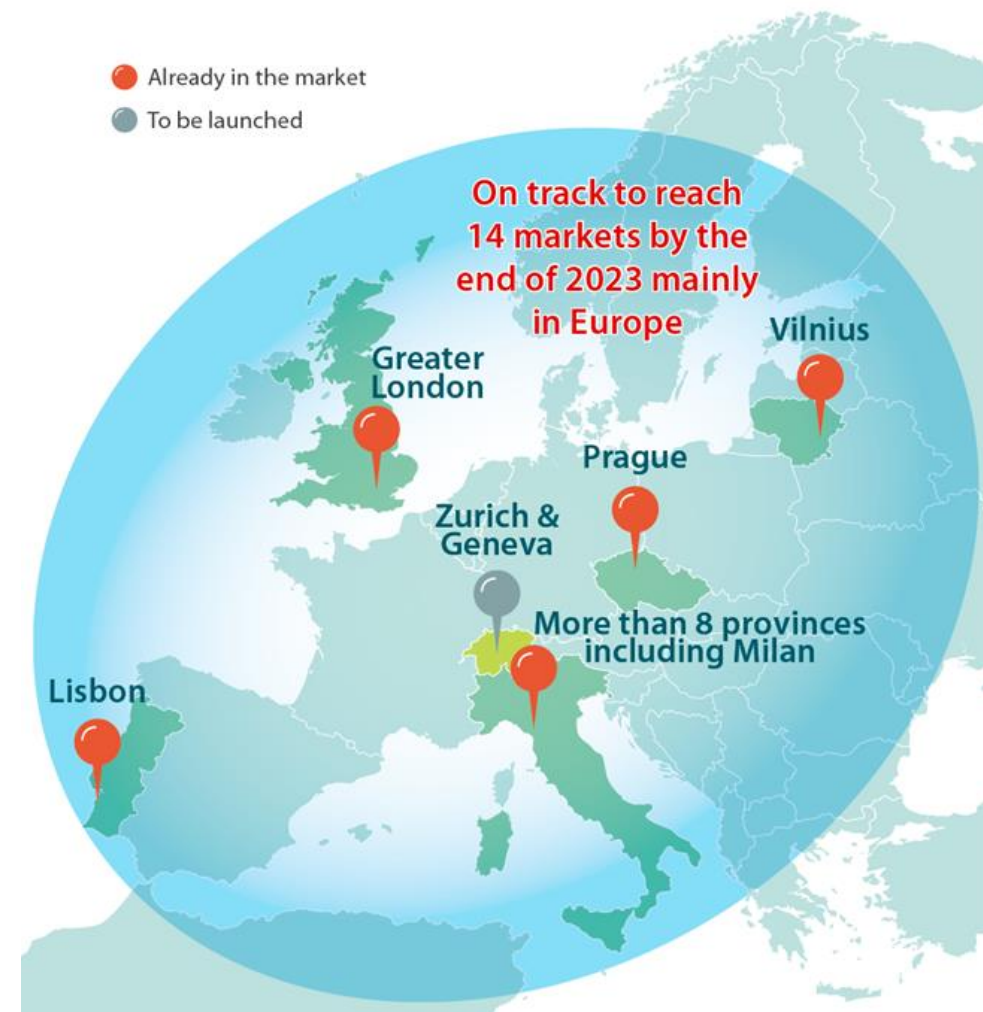


たばこ事業 : Ploom X global overview

- 2023年末時点での14市場における販売開始に向け、順調に進捗
 - 2024年末時点で28市場において販売を見込む
- チェコ
 - HTSの市場占有率は約15%*であり、高いマージンが期待される
 - 6月上旬よりプラハおよび一部Key Accountsで販売を開始
また、8月上旬より全国展開を予定
- スイス
 - HTSの市場占有率は約6%*であり、高いマージンが期待される
 - 9月上旬よりチューリッヒ・ジュネーブおよび一部Key Accountsで販売を開始予定
- デバイス・スティック双方に対し、お客様からの良好なフィードバック

*HTS市場占有率はいずれも2022年度平均

Ploom X geo-expansion



医薬事業・加工食品事業：財務実績

医薬事業

(億円)	2023年 1-6月	増減
売上収益	477	+84
調整後営業利益	100	+52

- **売上収益**：導出品のライセンス契約に係る一時金収入及び、鳥居薬品において、皮膚疾患領域・アレルギー領域の売上が伸長したことにより、前年同期比で増収
- **調整後営業利益**：売上収益の増収が、研究開発費の増加影響を上回り、前年同期比で増益

(参考) 導出品に関するアップデート：HIF-PH 阻害剤「エナロデュスタット」について、導出先のShenzhen Salubris Pharmaceuticals Co., Ltd.が透析導入前（保存期）の成人の慢性腎臓病に伴う貧血を適応症として、2023年6月7日に中国国家薬品监督管理局の承認を取得したことを発表

加工食品事業

(億円)	2023年 1-6月	増減
売上収益	734	▲1
調整後営業利益	29	+15

- **売上収益**：冷食・常温事業において、前年度及び当年度における価格改定に加え、外食需要の回復による業務用製品のトップライン伸長があるものの、ベーカリー事業譲渡に伴う売上収益の剥落により、前年同期と同水準
- **調整後営業利益**：前年度及び当年度における価格改定効果や、業務用製品のトップライン伸長影響が、原材料費等の大幅な悪化を相殺し、前年同期比で増益



2023年度 修正見込

2023年度 全社修正見込

(億円)	2023年 修正見込	対当初見込 増減	前年度比
財務報告ベース			
売上収益	27,590	+1,300	+3.8%
調整後営業利益	6,830	+160	▲6.2%
営業利益	6,330	+210	▲3.1%
当期利益	4,570	+170	+3.2%
FCF	4,780	+760	+951億円

注：IAS第29号超インフレ会計の適用に伴い、上記の表に記載の財務報告ベースの見込は超インフレ会計の影響を含みます。
為替一定ベースについては、特定市場のハイパーインフレーションに伴う売上及び利益の上半期における増加分について、一定の算出方法を用いて控除しています。

為替一定core revenue：対当初見込+1.2%、前年度比+3.2%

- たばこ事業における総販売数量の上方修正、上半期におけるプライシング効果等のモメンタムを織り込む
- 医薬事業、加工食品事業においても売上収益を上方修正

為替一定調整後営業利益：対当初見込+0.3%、前年度比+0.3%

- 加工食品事業における上方修正はあるも、たばこ事業及び医薬事業において当初見込を据え置いたことにより当初計画同水準（+20億円）

売上収益・調整後営業利益（財務報告ベース）：いずれも上方修正

- たばこ事業において多くの通貨の前提レートを円安方向に見直し。期初に想定したネガティブな為替影響は円安の継続により緩和される見通し

営業利益・当期利益：いずれも上方修正

- 営業利益は、調整後営業利益の上方修正に加え、調整項目における不動産売却益の増加を見込む
- 当期利益は、営業利益の上方修正及び法人税負担の減少が金融損益の悪化影響を上回る見込み

FCF

- 調整後営業利益の上方修正に加え、運転資本の改善等により、当初見込から大幅な増加を見込む

2023年度 たばこ事業：修正見込

数量前提

	2023年 修正見込	2023年 当初見込
総販売数量	前年度比 ▲1.0%程度	前年度比 ▲1.5%～▲2.0%

財務見込

(億円)	2023年 修正見込	対当初 見込増減	前年度比
財務報告ベース			
自社たばこ製品 売上収益	24,000	+1,070	+3.7%
調整後営業利益	7,100	+140	▲5.8%

注：IAS第29号超インフレ会計の適用に伴い、上記の表に記載の財務報告ベースの見込は超インフレ会計の影響を含みます。

為替一定ベースについては、特定市場のハイパーインフレーションに伴う売上及び利益の上半期における増加分について、一定の算出方法を用いて控除しています。

数量前提：「前年度比▲1.0%程度」に上方修正

- 上半期実績（日本、トルコ、GTR等の力強いパフォーマンス）を反映し、当初見込から上方修正
- 下半期は前年同期比で数量減少を見込む
 - 複数の市場における相対的・一時的な要因による販売数量の減少
 - スーダンにおける事業一時停止影響

財務見込（為替一定ベース）

自社たばこ製品売上収益：対当初見込 +0.9%（前年度比：+3.1%）

- 総販売数量の上方修正、上半期におけるプライシング効果等のモメンタムを織り込む

調整後営業利益：当初見込から変更なし（前年度比：+0.4%）

- トップラインを上方修正するものの、インフレーションに伴う間接コスト増加、Combustibles及びPloom X地理的拡大への投資強化、スーダンにおける原材料等の廃棄損を含む一時的な要因を織り込む

財務見込（財務報告ベース）

自社たばこ製品売上収益・調整後営業利益：いずれも上方修正

- 多くの通貨の前提レートを円安方向に見直し

2023年度 医薬事業・加工食品事業：修正見込

医薬事業

(億円)	2023年 修正見込	対当初 見込増減	対前年 増減
売上収益	920	+25	+91
調整後営業利益	135	-	+24

- **売上収益：対当初見込 +25億円**
鳥居薬品における増収に加え、円安による海外ロイヤリティ収入の増加を見込むことから上方修正
- **調整後営業利益：当初見込から変更なし**
売上収益を上方修正するものの、研究開発費の増加を見込む

加工食品事業

(億円)	2023年 修正見込	対当初 見込増減	対前年 増減
売上収益	1,550	+75	▲5
調整後営業利益	55	+15	+20

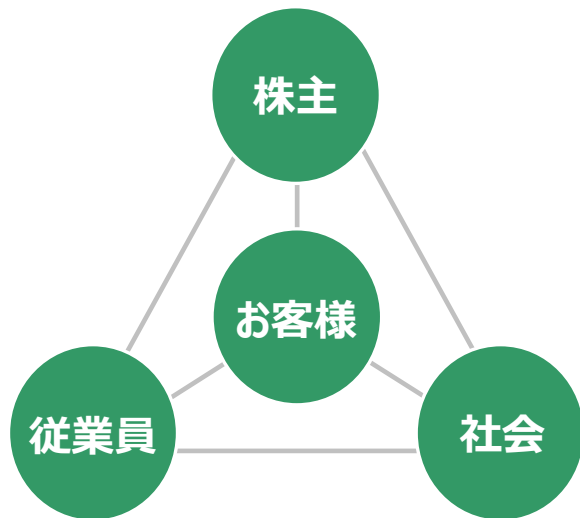
- **売上収益：対当初見込 +75億円**
冷食・常温事業における外食需要の回復早期化による業務用製品のトップライン伸長等を織り込み、上方修正
- **調整後営業利益：対当初見込 +15億円**
売上収益の上方修正を反映



終わりに

Closing Remarks

心の豊かさを、
もっと。



1-6月期実績

- たばこ事業におけるプライシング効果の発現、複数市場における底堅い総需要及びシェア伸張に支えられた、力強い上半期実績
- 医薬事業・加工食品事業の増益もグループ全体の利益成長を補完

2023年度全社修正見込について

- 為替一定調整後営業利益は、たばこ事業において、トップラインの上方修正を間接コストの上昇、事業投資の増加や一時的要因が相殺する見込みであることから、当初見込と同水準
- 財務報告ベースの調整後営業利益・当期利益は、多くの通貨の前提レートを円安方向に見直し、上方修正

株主還元

- 一株当たり年間配当金予想は当初の188円から変更なし
- 中間配当は94円

<用語の定義>

調整後営業利益（AOP）：	営業利益 + 買収に伴い生じた無形資産に係る償却費 + 調整項目（収益及び費用）* *調整項目（収益及び費用）= のれんの減損損失 ± リストラクチャリング収益及び費用等
為替一定ベース：	前年同期の為替レートを用いて換算／算出することにより、為替影響を除いた指標。ただし、為替一定ベースの実績は追加的に提供しているものであり、国際財務報告基準（IFRS）に基づく財務報告に代わるものではない
為替一定ベースcore revenue：	前年同期の現地通貨対米ドル、米ドル対円の為替レートを用いて換算／算出することにより為替影響を除いた自社たばこ製品売上収益 + 医薬事業・加工食品事業・その他の売上収益。ただし、為替一定ベースの実績は追加的に提供しているものであり、国際財務報告基準（IFRS）に基づく財務報告に代わるものではない
当期利益/四半期利益：	親会社の所有者に帰属する当期利益/四半期利益
Reduced-Risk Products (RRP)：	喫煙に伴う健康リスクを低減させる可能性のある製品。当社製品ポートフォリオにおけるheated tobacco sticks (HTS), infused-tobacco capsules (Infused), E-Vapor, 無煙たばこ製品等が含まれる
Heated tobacco sticks (HTS)：	高温加熱型の加熱式たばこ。1スティック = RMC1本として換算
Combustibles：	製造受託／水たばこ／加熱式たばこ／無煙たばこ／E-Vaporを除く可燃性のたばこ製品
GFB： (Global Flagship Brands)	Winston、Camel、MEVIUS、LDの4ブランド

<用語の定義>

総販売数量：	水たばこ／製造受託／RRPデバイス及び関連アクセサリを除くたばこ製品の販売数量
Combustibles販売数量：	水たばこ／E-Vapor／無煙たばこ（Snus・ニコチンパウチ）／加熱式たばこ／製造受託を除くたばこ製品の販売数量
RRP販売数量：	Reduced-Risk Products (RRP)の販売本数（RMCとして換算）。デバイス/関連アクセサリ等は含まない
自社たばこ製品売上収益：	物流事業／製造受託等を除く売上収益